

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	保健福祉部		
	課名	健康増進センター		
	係名	健康増進係		
	記入者		電話(内線)	32-7890

1. 事業の概要		(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	各種運動普及推進事業	(3) 事業の 優先度	B
(4) 総合計画での位置づけ				(6) 事業主体		市	
① 事業の区分	主要事業			(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質 一般事業費(ソフト事業)	
② 施策コード	11102	(総合計画掲載 <sup>ハ</sup> -ゾ <sup>ニ</sup> 49 <sup>ハ</sup> -ゾ <sup>ニ</sup> )		会計区分		一般会計	
基本目標(政策)	1ともに支えあい、安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)			財源区分		市単独	
基本施策	1-1健康で安心して暮らせる保健福祉の充実(健康・医療)			予算科目		款 4 項 1 目 3	
施策	①健康づくりの推進			予算書上の		運動普及推進事業費	
施策内容	2健康な身体づくりの支援			事業名称		(予算書 101 <sup>ハ</sup> -ゾ <sup>ニ</sup> に掲載)	
(5) 事業期間		開始	平成 8 年 4 月から	(8) 事務分類			
		終了	年 月まで ( 力年)	根拠法令		健康増進法	

2. 事業の目的及び内容	
(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
20歳以上の市民	地域の中で運動普及推進員と共に運動することで運動の意義や楽しさを実感し、運動を通じた健康づくりに取り組む。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
心身の健康づくりのための運動を普及啓発する。 ・リズムエクササイズ教室実施 ・ステップ運動教室実施 ・依頼による出前運動教室 ・その他健康運動教室実施	第2次健康日本21においても、市民の健康保持・増進及び生活習慣病予防のため、大きな柱として「身体活動の増加」、「健康な食事」、「禁煙」を推進している。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	
健康意識の高まり, 運動による健康づくりへの関心は高いが, 健康増進計画後期計画によれば運動を習慣的にしている市民(壮年期)は, 26%と低い。	

3. 事業コスト			
行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)
事業内容	27 年度	28 年度	29 年度    30 年度    31 年度
(1) 事務事業費の コスト	報償費		
	需用費	113	15
	備品購入費		
	会場賃借料		
	合計	113	15
	国庫支出金 (千円)		
	県支出金 (千円)		
地方債 (千円)			
その他特定財源 (千円)			
一般財源 (千円)	113	15	
合計 (千円)	113	15	
補助・起債制度名			

#### 4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
<b>(1) 活動指標（実施した事業の内容）</b>							
指標名	各種教室等の実施回数	目標値	回		120	120	120
		実績(見込)値		127	120		
	運動普及推進員協力者数	目標値	人		400	400	400
		実績(見込)値		413	400		
<b>(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）</b>							
指標名	教室参加者延人数(イベント協力除く)	目標値	人		2,000	2,100	2,200
		実績(見込)値		1,722	2,000	2,100	2,200
		達成率		74.9 %	87.0 %		
	リズムエクササイズ教室参加者数	目標値	人		900	930	960
		実績(見込)値		878	900	930	960
		達成率		88.7 %	90.9 %		

#### 5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

#### (2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	健康を維持・増進する上で運動を推進することは重要であり、必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	健康日本21にも地域における運動の推進とあり、市民の健康づくりを支援する側として妥当である。
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が一般的であり、妥当である。
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	推進員の中でもボランティア意欲は異なり、また休会者もいることから活動回数にはばらつきがある。
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	教室やイベントには多くの参加者があるが、リピーターの参加者も多く、全ての市民に伝達することは困難である。
有効性	成果の向上	A	上がっている	参加者数は増加しており、開催する運動教室は市民に定着しつつある。
進捗度	事業の進捗	A	順調である	推進員の運動普及人数は増加しており、教室の内容や幅は広がっている。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

開催する運動教室は好評であり、市民に定着しつつある。しかし、30～40歳代の若い世代の参加者が少ない現状にある。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

市民の健康づくりを支援する運動普及活動は求められており、今後も継続して市民のニーズにあった教室を開催していく。

#### 6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	現状のまま継続 (改善・改革なし)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	現状のまま継続 (改善・改革なし)	運動普及推進員の活動の場を広げるとともに、推進員のスキルアップを考慮しながら、事業への協力体制を確立していく。また、市民が参加しやすい体制整備(日程、会場等)を行う。
(3) 最終評価 企画調整会議において 評価を行う		上記評価のとおり。